歓迎のことば

対馬市長　　比田勝　尚喜

第19回九州還暦軟式野球選手権大会が、ここ対馬市で盛大に開催されますことを大変光栄に思い、九州各所からお越しくださいました選手並びに関係者の皆様を、心から歓迎申し上げます。

対馬は、古来より大陸文化の中継地としての重要な役割を果たしながら、特に、朝鮮半島との間では貿易などの交流が盛んに行われており、その地理的特性から、幾多の外交上の問題にも翻弄されながらも、民間交流の歴史は受け継がれて参りました。

また、対馬の魅力は特色ある歴史や文化をはじめ、豊かな自然が育んだ海の幸や山の幸でございます。対馬の味を存分に堪能し、プレーで疲れた身体を癒し、また好プレーの源としていただければ幸いでございます。

さて、新時代「令和」の幕開けとなった今年は、軟式野球界で最も権威あります天皇賜杯第７４回全日本軟式野球長崎県大会。そして元プロ野球ロッテオリオンズ投手の村田兆治さんが提唱された、『国土交通大臣杯第１２回全国離島交流中学生野球大会(通称・離島甲子園)』が、それぞれ７月と８月に開催されるなど、対馬は野球で盛り上がりを見せております。

本大会も、それらの大会と同様に白熱した試合が繰り広げられることと思いますが、それ以上に、野球をこよなく愛し、還暦を迎えられてもなお現役でプレーされる皆様の姿は、正しく健康づくりの手本であり、それぞれの地域でも大きな活力を与えていただけるものと思っております。選手の皆様にはこれまでの練習の成果を存分に発揮され、優勝を目指し頑張っていただくことはもちろんですが、他チームとの交流の輪を広げていただければと思っております。

結びに、本大会開催にあたりご支援ご尽力を賜りました関係者各位に心から感謝申し上げますとともに、九州還暦軟式野球連盟の今後益々のご発展と、選手皆様のご健闘を祈念致しまして、歓迎のあいさつといたします。